

研究課題

令和8年度茨城県農業総合センター流動研究員研究課題

園芸研究所 病虫研究室

1. 研究課題名

促成栽培トマトにおける天敵タバコカスミカメを用いたコナジラミ類総合防除体系の確立
(令和5～令和8年度)

2. 研究の背景及び目的

コナジラミ類の天敵としてタバコカスミカメ（以下、カスミ）が注目されており、本県では抑制栽培において、カスミ利用による化学合成農薬の使用量の削減とコナジラミ類の密度抑制が実証された。一方、促成栽培では未検討であり、カスミ増殖に不適な環境となる冬季に密度を維持し、春先に十分量を確保した状態でコナジラミを発生初期に防除する技術が必要である。

そこで、本研究では、本県の促成栽培に適したカスミの使用法を検討するとともに、既存の防除技術と組み合わせたコナジラミ類の総合防除（IPM）体系を確立する。

3. 研究内容

- 1) 春先までにカスミを十分量確保するための放飼方法（放飼時期、農薬の使用法等）及び冬季の密度維持に必要なバンカー植物の管理方法（温度、植栽数等）を検討する。
- 2) 冬季に温存したカスミと併せ、春先のコナジラミ類の密度抑制に有効なカスミの追加放飼回数や時期について検討する。
- 3) 上記の結果から得られたカスミの効果的な使用方法に加え、物理的防除法や耐病性品種等を組み合わせたコナジラミ類の IPM 体系を実証する。

4. 研究期間

令和5～8年度

5. 試験研究の年次計画

細目課題	研究期間（年度）				細目課題の試験内容
	R5	6	7	8	
1.カスミの密度管理技術の確立	○	○			秋季のカスミ放飼法の検討（放飼時期、使用農薬等） 冬季のカスミ管理法の検討（バンカーの管理温度等）
2.カスミの追加放飼方法の確立	○	○			春先のコナジラミの密度に応じたカスミの追加放飼回数や時期の検討
3.カスミを利用した IPM 体系の実証			○	○	カスミと物理的防除および耐病性品種等を組み合わせた IPM 体系の実証

6. 必要とされる知識及び実験技能

- 1) 昆虫学及び応用昆虫学に関する知識と実験に関する技能。
- 2) 圃場スケールでの園芸作物栽培に関する技能。